

ぺらぺらの はしと おやつの むこうがわ

きつねの コンと、うさぎの ミミの
ちいさな はしづくり。



おへやで、ピクニック。

そとは ざあざあ、あめの おと。

コンは つくえに、あおい ぬのを ひろげました。

「ここは かわ。むこうは、おやつの しま！」

ミミは しまに、クッキーの かごを おきました。



ぴょん、は なしね。

「ぼくの ゆびにんぎょうも、つれていこう」

コンの にんぎょうは、ぴょんと とべません。

「じゃあ、はしを かけようよ」

ミミが しろい かみを、いちまい もってきました。



ぺらん。これで どう？

かわの りょうがわに、おなじ たかさの ほん。

その あいだに、かみを いちまい。

「できた！」

にんぎょうを まんなかに のせると……



へにゃん。

はしが しずんで、にんぎょうが ころん。

「かみじゃ、だめなのかな」

コンの みみも、しゅん。

ミミは かみを ひろって、そっと のばしました。



だめ、の なかに ヒント。

「ぜんぶが だめ、じゃないよ」

ミミが、ほんの うえを ゆびさしました。

「はしの はしっこは、ささえられてる。

まんなかが、もっと まがりにくければ……」



おると、どうなる？

ミミは、べつのおなじかみをとりました。

ながいふちを、りょうがわともうえにあります。

「みぞみたいなはし！」

コンが、そのなかをのぞきこみました。



きみは、どっち？

「おった はしなら、わたれると おもう」

「でも、さっきより ほそく なったよ？」

ふたりは、かおを みあわせました。

「よし。おなじ やりかたで、くらべよう！」



かえるのは、おりかた。

かみの しゅるいも、おる まえの おおきさも おなじ。

ほんの あいだも、おもりも おなじ。

おもりには、おなじ けしゴムをつかいます。

まんなかに、ひとつずつ。そっと、そっと。



いち。に。さん。

まっすぐな かみは、ふたつめで くにやり。

おった かみは、みつつ のせても もちました。

「いちこと、さんこ。にこ ちがう！」

コンは わすれないように、かきとめました。



はしっこも、だいじ。

いよいよ、にんぎょうの ばん。

でも、はしが ずれて、かたほうが おちそう！

「あっ。ほんに のる ところが すくなかった」

ふたりは、りょうはしが しっかり のるよう に おきな おしました。



とことこ。とことこ。

コンが、にんぎょうを そっと すすめます。

ミミは はしを、じっと みています。

とことこ。とことこ。……とうちゃく！

「おやつの しまへ、ようこそ！」



ぺらぺらにも、できること。

クッキーを たべながら、コンが いいました。

「かみは おなじでも、かたちで かわるんだね」

ミミは、まどの そとを ゆびさします。

「あめ、やんだよ。ほんものの はしも、みてみたいね」



きみの かみの はし

ようい：おなじ かみ 2まい、おなじ たかさの ほん 2さつ、
おなじ けしゴムを いくつか、えんぴつ。



1. つくえの うえに ほんを はなし、かみの りょうはしが しっかり のる あいだに おく。ほんの ばし
よを おぼえておく。
2. 1まいは そのまま。もう1まいは、ながい ふちを りょうがわとも おなじ はばで うえに おる。な
が い おりめが、ほんから ほんへ むかうように おく。
3. それぞれの まんなかに、おなじ けしゴムを ひとつずつ、どのように のせる。おおきく たわむ・
おもりが おちる、その まえまでの かずを かく。

ちがう けっかも、はっけん。

おはなしと おなじ かずに ならなくても、だいじょうぶ。
かみの あつさや、ほんの あいだで かわります。
おもりが たりなければ「ここまでの った」と かこう。



はしの かたち	よそう	ためした けっか
おらない	こ	こ
おる	こ	こ

おとなへ：机の上で、軽い物だけを使ってください。小さな物を口に入れないよう見守り、崩れたら止めます。紙の端にも気をつけて。傷んだ紙は交換し、同じ条件で何度か確かめると、結果のばらつきにも気づけます。

「できない」を、しらべる。

紙を折って断面に高さをつくると、平らなままの紙より曲がりにくくできることがあります。材料が別物になったのではなく、形によって曲がりにくさが変わるのです。支える間隔や、折り目の向き、重りの置き方でも結果は変わります。



本書の「1こ・3こ」は物語上の例で、実測値や耐荷重の保証ではありません。折った橋が支えられる最大の数は、この物語では調べていません。実際の橋には、材料や接合部、安全性など、さらに多くの設計が必要です。

5～8歳向け・読み聞かせ約10分。観察と予想（科学）、道具の活用（技術）、試作と改善（工学）、個数と差の比較（数学）を一つの物語にしました。途中の問いは正解を急がず、子どもの理由を聞くきっかけに。

文・構成：Codex（Astra）／2026年9月

絵：Twemoji v14.0.2 © Twitter, Inc and other contributors

CC BY 4.0。既存PNG素材を配置・拡大縮小。画像生成AIは使用していません。

[素材の出典](#)・[ライセンス](#)・[同梱ライセンス](#)